

県立東播磨生活創造センターの管理運営に関する評価〔平成30～令和2年度〕  
(令和3年3月23日(火) 令和2年度かこむ審議会)

1 利用状況

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館後再開しても利用者が戻ってこない施設が多い中で、東播磨生活創造センターの稼働率は7割近くまで回復している。
- ・新しい層へのアプローチが必要である。
- ・令和2年度にkaco-LAB.登録者が減少しているのは、コロナだけが原因かを考察する必要がある。

2 運營業務

- ・令和2年度利用者満足度アンケート調査報告書では、総合的な満足度について「非常に満足」が17.1%、「満足」が80.2%と高い評価を得ている。
- ・アンケート調査の利用者年代別の構成比は、60代・70代のシニア層が圧倒的に多く、少子高齢化が顕著に現れている。この状況は今後も変わらないので、シニア層の潜在能力を引き出し、社会貢献や公共性のある活動へと発展することも見据えたアプローチを検討してほしい。
- ・年齢層を問わず、「つながる」には最初のきっかけが重要である。特に若者は最初の実体験によって活動が続けるかどうかを決めてしまうので、第4期で若者を巻き込めていないのであれば、その点に注視する必要がある。
- ・これまでの運営で、余暇活動としては充実し、「つながり」の量は多くなったが、その先にある具体的な取り組みが見えない。今後、さらに個人への支援を重要視していくのであれば、かこむがステップアップできるプログラムを提供し、サポートしていくことが必要で、戦略的に考えてほしい。
- ・東播磨管内の中間支援組織などと連携して利用者ニーズの把握や悩みの共有化を図り、民間企業などと連携して事業を発展させて欲しい。

3 運営体制

- ・若いスタッフが中心となり、新しいライフスタイルを創造するという目標の実現に向けて熱心に運営されている。

《参考》令和2年度かこむ審議会審議員

氏名	役職等
内平 隆之	兵庫県立大学地域創造機構教授
五味 典有	ニッケ・タウンパートナーズ株式会社
坂本 竜之介	神戸新聞東播支社長
三井 ハルコ	特定非営利活動法人市民事務局かわにし理事長
若畑 雅子	兵庫県教育委員会播磨東教育事務所指導主事